

報告

北海道がんサミット2017

常任理事・地域医療部長 伊藤 利道

8月6日(日)、昨年度に引き続き、北海道がんサミット2017が「患者の声を、がん対策へ『～今、なぜ受動喫煙防止条例が必要なのか～』」をテーマにWEST19(札幌市中央区大通西19丁目)を会場に開催されました。

主催は昨年4月に発足した北海道がん対策「六位一体」協議会です。「六位一体」とは患者・家族を中心に、医療提供者、行政担当者、議員、企業関係者やメディアの6者が協力してがん対策に取り組む協働体制のことです。道医もこの協議会の構成団体であり、当会の長瀬会長が協議会の会長を務めており、小職も協議会委員・がんサミット実行委員となっております。

午前中は北海道議会議員でがん対策北海道議会議員の会の中司哲雄会長代行から「北海道受動喫煙の防止に関する条例(案)」、美唄市医師会の井門明会長(医療法人社団井門内科医院院長)から「美唄市受動喫煙防止条例成立の背景」、NPO法人がん政策サミットの埴岡健一理事長(国際医療福祉大学大学院教授)から「患者・住民に成果が届く北海道がん計画に」の三つの講演が行われました。



中司 氏



井門 氏



埴岡 氏

また、塩崎前厚生労働大臣の本サミットに対する激励のビデオレターの紹介もありました。

フロアーからは、

- ・がんになってもタバコを止めない患者がいる。主治医からも積極的にタバコを止めるべきであることを指導してもらいたい。
- ・受動喫煙防止条例ではなく、タバコそのものを禁止する条例を作るべきである。
- ・タバコを吸う医療関係者にも有害物質をまき散らしているという意識を持ってもらいたい。
- ・議員にもタバコの害について、意識を高めてもらいたい。

など、厳しい意見も寄せられておりました。

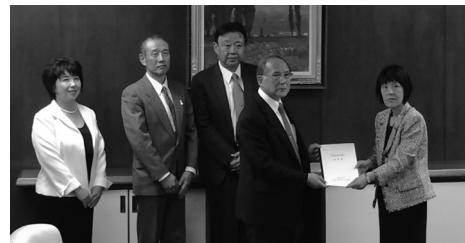
午後からは、グループワークが行われ、①たばこ対策、②がんの早期発見、がん検診、③希少がん、難治性がん、④小児がん、AYA世代のがん、⑤高齢者のがん、⑥がんと診断された時からの緩和ケア、⑦相談支援、情報提供、⑧地域社会におけるがん患者支援、⑨がん患者等の就労を含めた社会的な問題、⑩子供に対するがん教育、⑪成人者に対する普及啓発、⑫がん対策の基本、⑬がんの治療、以上13のテーマに関して、それぞれの問題点を議論し、解決へ向けての施策を検討し、グループごとに結果発表を行いました。傍聴希望の参加者も、活発な議論に耳を傾けておられました。



その後、本サミットを代表して、北海道がん患者連絡会より「受動喫煙防止アピール」があり、閉会いたしました。



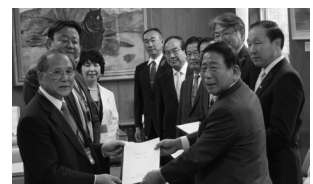
10月3日(火)、本サミットの検討内容を要望書に取りまとめ、北海道がん対策「六位一体」協議会の名のもと、高橋はるみ知事、秋元克広札幌市長、大谷亨道議会議長ほか各会派の代表者に提出しました。



高橋知事へ要望書手交



秋元札幌市長へ要望書手交



大谷北海道議会議長ほか各会派の代表者へ要望書手交



平成30年度より、第3期北海道がん対策推進計画が開始されます。受動喫煙防止をはじめとする各種対策が進み北海道のがんによる死亡率が減少することを強く望みます。

(要望書の内容は北海道がん対策「六位一体」協議会ホームページ「<http://www.sap-cc.org/summit/index.html>」)に掲載されております。